

# Hausdorff Gap の証明

石井大海

2022-04-16

**定理 1 (Hausdorff).** ブール代数  $\mathfrak{P}\omega/\text{Fin}$  について、次を満たす  $\{a_\alpha\}_{\alpha < \omega_1}, \{b_\alpha\}_{\alpha < \omega_1}$  が存在する.

- (1)  $a_\alpha < a_\beta < b_\beta < a_\alpha$  ( $\alpha < \beta < \omega_1$ )
- (2)  $a_\alpha \leq b \leq b_\alpha$  ( $\alpha < \omega_1$ ) を満たすような  $b \in \mathfrak{P}\omega/\text{Fin}$  は存在しない.

以後,  $[ \ ] : \mathfrak{P}\omega \rightarrow \mathfrak{P}\omega/\text{Fin}$  を標準写像とする. この定理の証明の為に, 幾つかの命題を証明しておく.  
まず, 次の事は簡単に確認出来る:

- Fact 1.**
- (i)  $[A] = 1 \Leftrightarrow A$  は補有限
  - (ii)  $[A] \leq [B] \Leftrightarrow A \setminus B \in \text{Fin}$
  - (iii)  $[A] \neq [B] \Leftrightarrow A \Delta B \notin \text{Fin}$

**補題 1.**  $a_n \leq a_{n+1} < 1$  ( $n < \omega$ ) ならば,  $a_n \leq b < 1$  ( $n < \omega$ ) となるような  $b$  が存在する.

*Proof.*  $[A_n] = a_n$  となるような  $A_n \subseteq \omega$  を取る. 次のようにして,  $j_n < j_{n+1}$  を  $A_i \cap [j_n, \omega) \subseteq A_n$  ( $i < n$ ) を満たすように再帰的に定める.

まず,  $j_0 = 0$  とする. そこで  $j_n$  まで  $A_i \cap [j_n, \omega) \subseteq A_n$  ( $i < n$ ) を満たすように取れているとして,  $j_{n+1}$  を作りたい. ここで,

$$j_{n+1} = \min \{ j_n < j < \omega \mid A_n \cap [j, \omega) \subseteq A_{n+1} \}$$

により  $j_{n+1}$  を定めよう. もし右辺の集合が空集合であれば, どんな  $j > j_n$  に対しても  $A_n \cap [j, \omega) \not\subseteq A_{n+1}$  となるので,  $|A_n \setminus A_{n+1}| = \aleph_0$  となる. しかし, 仮定より  $[A_n] \leq [A_{n+1}]$  であったので,  $A_n \setminus A_{n+1} \in \text{Fin}$  でなくてはならず, 矛盾. よって  $n < \omega$  に対し常に題意を満たす  $j_n$  が取れる.

次に,  $j_n \leq k_n, k_n < k_{n+1}$  ( $n < \omega$ ) を満たすように  $k_n \notin A_n$  を構成したい. 今, 仮定より  $A_n$  は補有限ではないので,  $\omega \setminus A_n$  は  $\omega$  で非有界である. よって, このような  $k_n$  は常に取れる.

すると,  $m > n$  なら  $k_m \notin A_n$  が成立する. なぜなら,  $m > n$  の時  $A_n \cap [j_m, \omega) \subseteq A_m$  であり, 今  $j_m \leq k_m$

であったので  $A_n \cap [k_m, \omega) \subseteq A_m$  である. ここで  $k_m \in A_n$  とすると,  $k_m \in A_n \cap [k_m, \omega) \subseteq A_m$  となるが,  $k_m \in \omega \setminus A_m$  なので矛盾.

そこで,  $A = \omega \setminus \{k_n \mid n < \omega\}$  とおけば,  $b = [A]$  が求めるものである. まず, 構成から  $A$  は補有限でないので,  $b = [A] < 1$  である. また,  $A'_n = A_n \cap [k_n, \omega)$  とおけば,  $A_n \setminus A'_n \subseteq [0, k_n) \in \text{Fin}$  より  $[A_n] \leq [A'_n]$ . また  $A'_n \subseteq A_n$  より  $[A_n] \leq [A'_n]$ . よって  $[A_n] = [A'_n] = a_n$  である.  $j \in A'_n$  とすると,  $j > k_n$  かつ  $j \neq k_m$  ( $m > n$ ). よって,  $A'_n \subseteq \omega \setminus \{k_n \mid n < \omega\}$  となるので,  $a_n = [A_n] \leq [A] = b$  である.  $\square$

**補題 2.**  $a_n \leq a_{n+1}, b_n \leq b_{n+1}, a_n \wedge b_n = 0$  ( $n < \omega$ ) ならば,  $a_n \leq c$  かつ  $b_n \wedge c = 0$  ( $n < \omega$ ) となる  $c$  が存在する.

*Proof.*  $a_n = [A_n], b_n = [B_n]$  とする.  $a_n \wedge b_n = 0$  より  $A_n \cap B_n \in \text{Fin}$  ( $n < \omega$ ) である.

そこで,

$$\begin{aligned} A_i \cap [j_n, \omega) &\subseteq A_n \\ A_n \cap B_i &\subseteq [0, j_n) \end{aligned} \quad (i \leq n) \quad (*)$$

を満たすように  $j_n < j_{n+1}$  を取りたい. まず,  $A_n \cap B_n \in \text{Fin}$  より,  $A_0 \cap B_0 \subseteq [0, j_0)$  となるような最小の  $j_0$  が取れる. この時,  $A_0 \cap [j_0, \omega) \subseteq A_0$  は自明に成立しているので,  $n = 0$  の時は OK. そこで, (\*) を満たす  $j_n$  が取れているとき,  $j_{n+1}$  を次のように定める:

$$j_{n+1} = \min \{ j_n < j < \omega \mid A_{n+1} \cap B_i \subseteq [0, j) \ (i < n+1), A_n \cap [j, \omega) \subseteq A_{n+1} \}$$

ここで,  $A_{n+1} \cap B_i \subseteq [0, j)$  となるような  $j$  が取れることは補題 1 の証明で既に示した. また,  $A_{n+1} \cap B_i \in \text{Fin}$  ( $i \leq n+1$ ) だから, 各  $i$  に対し  $\subseteq [0, j)$  となるような  $j$  が取れる. 全順序性より二条件を満たすものは明らかに存在するので,  $j_{n+1}$  は well-defined である. 以上から,  $j_n < j_{n+1}$  が取れる.

ここで  $A'_n = A_n \cap [j_n, \omega)$  とおくと, 有限の差しかないので  $[A'_n] = [A_n] = a_n$  である. そこで,

$$C = \bigcup \{ A'_n \mid n < \omega \} = \bigcup \{ A_n \cap [j_n, \omega) \mid n < \omega \}$$

として,  $c = [C]$  とおけば,  $a_n \leq c$  を満たす. また,

$$\begin{aligned} B_m \cap C &= \bigcup_{n < \omega} (A_n \cap B_m \cap [j_n, \omega)) \\ &= \bigcup_{n < m} (A_n \cap B_m \cap [j_n, \omega)) \cup \bigcup_{m \leq n < \omega} (A_n \cap B_m \cap [j_n, \omega)) \\ &\subseteq \bigcup_{n < m} (A_n \cap B_m \cap [j_n, \omega)) \cup \bigcup_{m \leq n < \omega} ([0, j_n) \cap [j_n, \omega)) \\ &\subseteq \bigcup_{n < m} (A_n \cap B_m) \in \text{Fin} \end{aligned}$$

よって,  $b_m \wedge c = 0$  ( $m < \omega$ ) も成立.  $\square$

**補題 3.**  $\lambda$  を無限順序数とする.  $X \subseteq \omega, X_\alpha \subseteq \omega$  ( $\alpha < \lambda$ ),  $[X] \leq [Y]$  とする. このとき, もし任意の  $k < \omega$  について  $\{\alpha < \lambda \mid X_\alpha \cap X \subseteq k\}$  が有限なら,  $Y$  も同様の性質を満たす.

*Proof.* 対偶を示す. つまり,  $[X] \leq [Y]$  として, ある  $k < \omega$  に対し,  $Y \cap X_{\alpha_j} \subseteq k$  ( $j < \omega$ ) を満たすような  $\alpha_j < \omega$  が取れたとする. 今,  $[X] \leq [Y]$  より  $X \setminus Y \in \text{Fin}$ . そこで,  $\ell = \sup^+(X \setminus Y) < \omega$  と置く. この時,

$$\begin{aligned} X \cap X_{\alpha_j} &= ((X \cap Y) \cup (X \setminus Y)) \cap X_{\alpha_j} \\ &= (X \cap Y \cap X_{\alpha_j}) \cup (X \setminus Y) \cap X_{\alpha_j} \\ &\subseteq k \cup \ell = \max(k, \ell) \end{aligned}$$

よって  $m = \max(k, \ell)$  とおけば  $\{\alpha < \lambda \mid X \cap X_\alpha \subseteq m\} \notin \text{Fin}$  となる. よって示された. □

以上, 三つの補題が, 以下の証明において本質的な役割を果たす.

定理の証明. 以下を満たすように  $A_\alpha, B_\alpha$  ( $\alpha < \omega_1$ ) を帰納的に構成する:

- (a)  $[A_\alpha] \vee [B_\alpha] < 1$
- (b)  $[A_\alpha] \wedge [B_\alpha] = 0$
- (c)  $[A_\alpha] < [A_\beta], [B_\alpha] < [B_\beta]$  ( $\alpha < \beta < \omega_1$ )
- (d) 各  $k < \omega, \beta < \omega_1$  に対し,  $\{\alpha < \beta \mid A_\beta \cap B_\alpha \subseteq k\}$  は有限

$\alpha = 0$  の時は,  $A_0 = B_0 = \emptyset$  とおけばよい.

$\alpha$  が後続順序数の時.  $A_{\alpha+1}, B_{\alpha+1}$  を作ることを考える.  $\beta < \alpha$  とすると, 帰納法の仮定より  $A_\alpha \cup B_\beta$  は補有限ではない. そこで,  $\omega \setminus (A_\alpha \cup B_\alpha) = \{n_k \mid k < \omega\}$  ( $\ell < k \Rightarrow n_\ell < n_k$ ) として,

$$\begin{aligned} P &= \{n_k \mid k \equiv 0 \pmod{3}\} & Q &= \{n_k \mid k \equiv 1 \pmod{3}\} \\ A_{\alpha+1} &= A_\alpha \cup P & B_{\alpha+1} &= B_\alpha \cup Q \end{aligned}$$

とおく. このとき,  $\omega \setminus (A_{\alpha+1} \cup B_{\alpha+1}) = \{n_k \mid k \equiv 2 \pmod{3}\}$  となるので,  $[A_{\alpha+1}] \vee [B_{\alpha+1}] < 1$  である. よって条件 (a) は成立. また, 条件 (b) についても,

$$\begin{aligned} A_{\alpha+1} \cap B_{\alpha+1} &= (A_\alpha \cup P) \cap (B_\alpha \cup Q) \\ &= (A_\alpha \cap B_\alpha) \cup \underbrace{(A_\alpha \cap Q)}_{=\emptyset} \cup \underbrace{(B_\alpha \cap P)}_{=\emptyset} \cup \underbrace{(P \cap Q)}_{=\emptyset} \\ &= A_\alpha \cap B_\alpha \in \text{Fin} \end{aligned}$$

より  $[A_{\alpha+1}] \wedge [B_{\alpha+1}] = 0$  となるので OK.

構成法より  $A_{\alpha+1} \setminus A_\alpha = P, B_{\alpha+1} \setminus B_\alpha = Q$  はいずれも無限集合なので,  $[A_\alpha] < [A_{\alpha+1}], [B_\alpha] < [B_{\alpha+1}]$  である. 帰納法の仮定より  $[A_\beta] < [A_\alpha], [B_\beta] < [B_\alpha]$  ( $\beta < \alpha$ ) が成立するので, これらを組み合わせれば  $[A_\beta] < [A_{\alpha+1}], [B_\beta] < [B_{\alpha+1}]$  ( $\beta < \alpha + 1$ ) となり, 条件 (c) も成立.

最後に (d) が成立することを背理法により示そう. そこで,  $\{\beta < \alpha + 1 \mid A_{\alpha+1} \cap B_\beta \subseteq k\}$  が無限となるような  $k < \omega$  が存在したとする. この時, 増大列  $\beta_n < \beta_{n+1}$  ( $n < \omega$ ) であつて  $A_{\alpha+1} \cap B_{\beta_n} \subseteq k$  となるものが取れる. 構成から  $A_\alpha \subseteq A_{\alpha+1}$  であるので,  $A_\alpha \cap B_{\beta_n} \subseteq k$  ( $n < \omega$ ) となる. これは帰納法の仮定に反す

る. よって (d) も成立. 以上より,  $\alpha$  が後続順序数の時, 条件 (a) ~ (d) を満たすように  $A_\alpha, B_\alpha$  を作る事が出来る.

$\alpha = \beta$  が極限順序数の時,  $\gamma < \beta$  のとき, 帰納法の仮定の (a) および (c) と補題 1 から  $[A_\gamma] \vee [B_\gamma] \leq [X] < 1$  ( $\gamma < \beta$ ) を満たす  $X \subseteq \omega$  が取れる. 同様に補題より

$$[A_\gamma] \leq [S], \quad [B_\gamma] \wedge [S] = 0 \quad (\gamma < \beta) \quad (1)$$

を満たす  $S$  が取れ, 特に  $S \subseteq X$  としてよい (特に  $[X] \wedge [S]$  を考えれば,  $[X] \wedge [S] \geq ([A_\gamma] \vee [B_\gamma]) \wedge [S] = [A_\gamma]$  であり,  $[X] \wedge [S] \wedge [B_\gamma] = 0$  なので条件を満たす. また,  $[X] \wedge [S] \subseteq [X]$  より  $[S'] = [X] \wedge [S]$  で  $S' \subseteq X$  を満たすような  $S'$  が取れる).

補題 2 を使って  $A_\beta$  を定めたい. そこで, まずは  $\beta = \omega$  の場合について,  $[B_\gamma]$  について補題 2 の前提を満たす列  $S \subseteq [S_k]$  を作りたい:

$$\begin{cases} [S_k] \leq [S_{k+1}] & (k < \omega) \\ [B_n] \leq [B_{n+1}] & (n < \omega) \\ [S_n] \wedge [B_n] = 0 & (n < \omega) \end{cases} \quad (2)$$

今,  $I_k = \{n < \omega \mid S \cap B_n \subseteq k\}$  ( $k < \omega$ ) とおき, これを用いて  $S$  を膨らませた列を作ることを考える. 上の条件を満たす  $[S_k]$  を得るため,  $[S_k] \wedge [B_n] = 0$  かつ  $\{n \in I_k \mid S_{k+1} \cap B_n \subseteq k\}$  が有限となるように  $[S_k]$  を帰納的に定める.  $k = 0$  の時は,  $S_0 = S$  とすれば良い. そこで,  $S_k$  まで条件を満たすように構成出来たととして,  $S_{k+1}$  を作ろう.

$I_k$  が有限集合の時は,  $S_{k+1} = S_k$  とおく.  $I_k$  が無限集合の時を考える.  $\{n < m \mid S \cap B_n \subseteq k\}$  は有限集合であるので,  $\langle I_k, < \rangle$  は各始切片が有限集合であるような無限整列集合である. このような性質を持つ順序数は  $\omega$  のみであるので, 同型  $e: \omega \rightarrow I_k$  が取れ, 特に  $e$  は狭義単調増加な全射である. 更に, このとき  $\sup \{e(n) \mid n < \omega\} = \omega$  である. これを示すには,  $e$  が全射であることから  $\sup \{e(n) \mid n < \omega\} = \sup I_k$  となるので,  $\sup I_k = \omega$  を示せばよい. もし  $\sup I_k = m < \omega$  とすれば, 特に  $I_k = \{n < m+1 \mid S \cap B_n \subseteq k\}$  と書けることになる. 今,  $m+1 < \omega$  であり, (\*) より  $I_k$  は有限集合となり, 仮定に反する. よって  $\sup I_k = \omega$  となる.

さて,  $[B_\alpha]$  に関する帰納法の仮定 (c) より  $[B_n] < [B_{n+1}]$  ( $n < \omega$ ) である. よって, 数学的帰納法により  $0 < [B_{e(n)} \setminus \bigcup_{i < n} B_{e(i)}] \leq [X]$  となる事がわかる. 従って  $B_{e(n)} \setminus \bigcup_{i < n} B_{e(i)}$  が無限なので,  $p_n \in (B_{e(n)} \setminus \bigcup_{i < n} B_{e(i)}) \cap X$  を満たすような  $n \leq p_n$  が取れ, 特に  $p_n < p_{n+1}$  とできる. そこで,  $S_{k+1} = \{p_k \mid k < \omega\} \cup S_k$  と置く. この時,  $B_{e(m)} \cap \{p_n \mid n < \omega\} \subseteq \{p_n \mid n \leq m\} \in \text{Fin}$  より  $[B_{e(m)}] \wedge [\{p_n \mid n < \omega\}] = 0$  であるので, 帰納法の仮定と合わせて

$$\begin{aligned} [S_{k+1}] \wedge [B_{e(m)}] &= ([\{p_k \mid k < \omega\}] \wedge [B_{e(m)}]) \vee ([S_k] \wedge [B_{e(m)}]) \\ &= 0 \vee 0 = 0 \end{aligned}$$

を得る.

最後に  $l < \omega$  について  $\{n \in I_k \mid S_{k+1} \cap B_n \subseteq l\}$  が有限であることを示す. まず, 先程の議論より  $e$  は  $\omega$  から  $I_k$  への順序同型なので  $\{n \in I_k \mid S_{k+1} \cap B_n \subseteq l\} \approx \{n < \omega \mid S_{k+1} \cap B_{e(n)} \subseteq l\}$  である. 今,  $S_{k+1} \cap B_{e(n)} = (\{p_k \mid k < \omega\} \cap B_{e(n)}) \cup (S_k \cap B_{e(n)})$  なので, これが  $\subseteq l$  となるには,  $\{p_k \mid k \leq n\} \subseteq l$  となる必要があり, 特に  $p_n < l$  でなくてはならないが,  $p_n$  の取り方より  $n \leq p_n$  に取っているので,  $n < l$  でなくてはならない. よって,  $S_{k+1} \cap B_{e(n)} \subseteq l$  に含まれるような  $n$  の候補は高々  $l$  個しかない. よって,  $\{n \in I_k \mid S_{k+1} \cap B_n \subseteq l\}$  は有限である.

以上より, (2) を満たすように  $S_k$  ( $k < \omega$ ) を取ることが出来た. よって, 補題 2 よりある  $[A_\omega]$  が存在し,

$$[S_k] \leq [A_\omega], [A_\omega] \wedge [B_n] = 0 \quad (n < \omega)$$

となる. 特に, 先程  $S$  を取った時と同様な議論により  $A_\omega \subseteq X$  としてよい. よって, 特に  $[A_\omega] \leq [X] < 1$  である.

そこで,  $B_\omega = X \setminus A_\omega$  とおいて, これが条件 (a) ~ (d) を満たすことを示す.

(a)  $[A_\omega] \vee [B_\omega] = [X] < 1$  なので成立.

(b)  $[A_\omega] \wedge [B_\omega] = [\emptyset] = 0$  より成立.

(c)  $n < \omega$  とすれば, 帰納法の仮定により  $[A_n] < [A_{n+1}] \leq [S_0] \leq [A_\omega]$  より  $[A_n] < [A_\omega]$ . また,  $B_n \setminus B_\omega = B_n \cap A_n \in \text{Fin}$  なので  $[B_n] \leq [B_\omega]$ . よって, 先程と同様の議論により  $[B_n] < [B_{n+1}] \leq B_\omega$  となる. よって OK.

(d) 任意の  $k < \omega$  に対し,  $\{n < \omega \mid A_\omega \cap B_n \subseteq k\}$  が有限であることを示す. もし  $I_k = \{n < \omega \mid S \cap B_n \subseteq k\}$  が有限であれば,  $[S] \leq [A_n]$  であることから補題 3 が適用出来,  $\{n < \omega \mid A_\omega \cap B_n \subseteq k\}$  も有限となる.

そこで,  $I_k$  が無限の場合を考える. この時, 構成法から  $\{n \in I_k \mid S_{k+1} \cap B_n \subseteq k\}$  は有限である. よって, 構成時に使った  $e$  について,  $\{n < \omega \mid S_{k+1} \cap B_{e(n)} \subseteq k\}$  も有限. 今,  $[S_{k+1}] \leq [A_\omega]$  より, 補題 3 から  $\{n < \omega \mid A_\omega \cap B_{e(n)} \subseteq k\}$  も有限となる. そこで,  $n_0 = \sup^+ \{n < \omega \mid A_\omega \cap B_{e(n)} \subseteq k\}$  とおけば  $e(n_0) < \omega$  なので,  $\{n < e(n_0) \mid A_\omega \cap B_n \subseteq k\}$  は有限となる.  $n_0$  の取り方と  $I_k$  の定義より,  $\{n < \omega \mid A_\omega \cap B_n \subseteq k\} = \{n < e(n_0) \mid A_\omega \cap B_n \subseteq k\}$  となるので示された.

最後に  $\beta > \omega$  の場合を考える.  $\omega < \beta < \omega_1$  より,  $\beta$  は基数でないので特に特異順序数である. また,  $\beta$  は可算な極限順序数であるので,  $\text{cf}(\beta) = \omega$  となる. そこで,  $f : \omega \rightarrow \beta$  を狭義単調増加な共終写像とする. この時,  $A'_n = A_{f(n)}, B'_n = B_{f(n)}$  を考えると,  $A_\alpha, B_\alpha$  に関する帰納法の仮定から, 上の議論を適用でき,  $A'_\omega, B'_\omega$  が取れる. そこで  $A_\beta = A'_\omega, B_\beta = B'_\omega$  とおけば, これが題意を満たすものとなっていることがわかる: (a), (b) が成り立つことは明らか. (c) については,  $\alpha < \beta$  とすると,  $\omega$  の  $\beta$  での共終性から  $n < \omega$  で  $\alpha \leq f(n)$  となるものが取れる. よって  $[A_\alpha] \leq [A_{f(n)}] < [A_\beta]$  となる.  $[B_\beta]$  についても同様である. (d) については, 少し議論が必要である. まず, 各  $k < \omega$  に対し  $J_k = \{n < \omega \mid A_\beta \cap B_{f(n)} \subseteq k\}$  は有限個である. そこで  $n = \max J_k$  とおくと,  $f$  の共終性と  $B_n$  の単調性から  $\{\alpha < \beta \mid A_\beta \cap B_\alpha \subseteq k\} = \{\alpha < f(n+1) \mid A_\beta \cap B_\alpha \subseteq k\}$  となる. 今, 帰納法の仮定より  $\{\alpha < f(n+1) \mid A_{f(n+1)} \cap B_\alpha \subseteq k\}$  は有限.  $f(n+1) < \beta$  より  $[A_{f(n+1)}] = [A'_{n+1}] \leq [A'_\omega] = [A_\beta]$  であるので, 補題 3 から  $\{\alpha < f(n+1) \mid A_\beta \cap B_\alpha \subseteq k\}$  も有限となる. 以上より, 任意の極限順序数  $\beta < \omega_1$  について必要な  $A_\beta, B_\beta$  が構成出来る.

以上より, (a) ~ (d) を満たすような列  $A_\alpha, B_\alpha$  ( $\alpha < \omega_1$ ) が取れた. そこで,  $a_\alpha = [A_\alpha], b_\alpha = \neg[B_\alpha]$  とおけば, これが定理の主張する列となることを示す.

まず,  $a_\alpha < a_\beta, b_\beta < b_\alpha$  ( $\alpha < \beta$ ) は条件 (c) から直ちに従う. また, 条件 (b) より  $a_\alpha \wedge \neg b_\alpha = [A_\alpha] \wedge [B_\alpha] = 0$  なので, ブール代数の一般論から  $a_\alpha \leq b_\alpha$  となる. また, 同様に条件 (a) から  $a_\alpha \vee \neg b_\alpha = [A_\alpha] \vee [B_\alpha] < 1$  なので  $b_\alpha \not\leq a_\alpha$  である. よって  $a_\alpha < b_\alpha$  ( $\alpha < \omega_1$ ) となる. 以上より  $a_\alpha < a_\beta < b_\beta < b_\alpha$  ( $\alpha < \beta < \omega_1$ ) は示された.

二つめの条件を示せば, 証明が完了する. そこで,  $a_\alpha \leq b \leq b_\alpha$  ( $\alpha < \omega_1$ ) となるような  $b$  が存在したとして, 矛盾を導こう. まず  $\{\alpha < \omega_1 \mid B \cap B_\alpha \subseteq k\}$  が有限であることを示す. 証明には, 次の二つの命題を

使う：

**命題 1.**  $\kappa$  : 正則基数,  $X_\alpha \subseteq X_\beta$  ( $\alpha < \beta < \kappa$ ) とする. この時,  
 $\{X_\alpha \mid \alpha < \kappa\}$  に包含関係に関する最大元が存在しない  $\Rightarrow |\bigcup\{X_\alpha \mid \alpha < \kappa\}| \geq \kappa$

*Proof.*  $\delta_0 = 0, \delta_\beta = \min\left\{\gamma < \kappa \mid X_\gamma \setminus \bigcup_{\alpha < \beta} X_{\delta_\alpha} \neq \emptyset\right\}$  ( $\beta \neq 0$ ) とおく. この時, 任意の  $\beta < \kappa$  に対し  $\delta_\beta$  が定まる. もしある  $\beta < \kappa$  に対し  $\left\{\gamma < \kappa \mid X_\gamma \setminus \bigcup_{\alpha < \beta} X_{\delta_\alpha} \neq \emptyset\right\} = \emptyset$  となったとすると,

$$\forall \gamma < \kappa, X_\gamma \subseteq \bigcup\{X_{\delta_\alpha} \mid \alpha < \beta\}$$

が成立する. 今,  $\kappa$  は正則なので,  $\{\delta_\alpha \mid \alpha < \beta\}$  は  $\kappa$  で有界となる. よって,  $\delta = \sup\{\delta_\alpha \mid \alpha < \beta\} < \kappa$  が定まり, 条件から  $X_{\delta_\alpha} \subsetneq X_\delta$  となる. すると, 上の議論から  $X_\gamma$  が  $\{X_\alpha \mid \alpha < \kappa\}$  の最大元となり矛盾. よって  $\delta_\beta$  は well-defined である. そこで,  $x_\beta \in X_{\delta_\beta} \setminus \bigcup\{X_{\delta_\alpha} \mid \alpha < \beta\}$  を取れば, 各  $x_\beta$  はそれぞれ異なるので,  $|\{x_\beta \mid \beta < \kappa\}| = \kappa$  である. よって  $\{x_\beta \mid \beta < \kappa\} \subseteq \bigcup\{X_\alpha \mid \alpha < \kappa\}$  なので  $|\bigcup\{X_\alpha \mid \alpha < \kappa\}| \geq \kappa$  となる.  $\square$

更に, 次の命題も成立する：

**命題 2.**  $\kappa$  : 基数,  $F_\alpha$  : 有限集合, ( $\alpha < \kappa$ ),  $F_\alpha \subseteq F_\beta$  ( $\alpha < \beta < \kappa$ )  $\implies |\bigcup\{F_\alpha \mid \alpha < \kappa\}| \leq \omega$

*Proof.* まず, 包含関係に関して正則基数型を持つ  $\{F_\alpha \mid \alpha < \kappa\}$  の共終部分集合を取る. 共終性より, その共終部分集合の和集合は元の集合の和と一致するから, 以後,  $\kappa$  は正則基数だと思えばよい.

そこで, 命題 1 に倣って

$$\delta_0 = 0, \delta_\beta = \min\left\{\gamma < \kappa \mid F_\gamma \setminus \bigcup_{\alpha < \beta} F_{\delta_\alpha} \neq \emptyset\right\} \quad (\beta \neq 0)$$

とおき,  $x_\beta$  を命題 1 と同様に定義する.  $\delta_\beta$  が定義されるような  $\beta$  の全体は明らかに順序数となるので, それを  $\alpha$  と置く. この時,  $\alpha \leq \omega$  である. もしこの  $\alpha > \omega$  とすると,  $\kappa > \omega$  であり, このとき  $\{x_n \mid n < \omega\} \subseteq F_\omega$  となってしまう,  $F_i$  の有限性に反するからである. もし  $\kappa \leq \omega$  ならば, 可算集合の可算和は高々可算であることから主張は明らか. そこで,  $\kappa > \omega$  とする.  $\kappa$  は正則としてよかつたので,  $\delta = \sup^+ \delta_\alpha < \kappa$  が取れ, 上の議論から特に  $\delta \leq \omega$  となる. もし,  $\delta = \omega$  とすると,  $\delta_n$  の取り方より  $F_{\delta_n} \subsetneq F_{\delta_m}$  ( $n < m$ ) なので,  $F_\omega$  が無限集合となり矛盾. よって, この場合は  $\delta < \omega$  となるので, わかり易いように  $N = \delta$  と書くことにする. このとき,  $F_{\delta_n} \subsetneq F_\gamma$  ( $n < N$ ) となるような  $\gamma < \kappa$  が存在すれば,  $F_\gamma \setminus \bigcup\{F_{\delta_n} \mid n < N\} \neq \emptyset$  なので,  $\gamma = \delta_N$  となり矛盾. よって,  $\{F_{\delta_n} \mid n < N\}$  は非有界なので, その和は元の集合の和に一致し, 特に有限集合の有限和となるので, 全体として有限になる. 以上より, 命題は示された.  $\square$

以上の二つの命題を踏まえて,  $J_k = \{\alpha < \omega_1 \mid B \cap B_\alpha \subseteq k\}$  の有限性を証明する. まず  $A_\alpha, B_\alpha$  の構成法

より,  $\beta < \omega_1$  について,  $\{\alpha < \beta \mid A_\beta \cap B_\alpha \subseteq k\}$  は有限である. よって, 補題 3 および仮定の  $[A_\beta] \leq [B]$  より  $\{\alpha < \beta \mid B \cap B_\alpha \subseteq k\}$  も有限となる.

そこで,  $F_\beta = \{\alpha < \beta \mid B \cap B_\alpha \subseteq k\}$  ( $\beta < \omega_1$ ) とおけば,  $\{F_\beta \mid \beta < \omega_1\}$  は有限集合族であり, 明らかに  $F_\alpha \subseteq F_\beta$  ( $\alpha < \beta$ ) となる. また, 明らかに  $J_k = \bigcup \{F_\alpha \mid \alpha < \omega_1\}$  である. すると, 命題 2 より  $|\bigcup \{F_\alpha \mid \alpha < \omega_1\}| \leq \omega < \omega_1$  である. よって,  $\omega_1$  の正則性と命題 1 の対偶より,  $\{F_\alpha \mid \alpha < \omega_1\}$  は最大元  $F_\gamma$  を持つ. よって,  $F_\alpha \subseteq F_\gamma$  ( $\alpha < \omega_1$ ) より  $J_k = \bigcup \{F_\alpha \mid \alpha < \omega_1\} = F_\gamma$  となる.  $F_\gamma$  は有限だったから, 各  $J_k$  も有限となる.

すると,  $\bigcup_{n < \omega} J_n$  は有限集合の可算和なので高々可算である. よって,  $\alpha_0 \in \omega_1 \setminus \bigcup_{n < \omega} J_n$  が取れ, 各  $J_k$  の定義より  $B \cap B_{\alpha_0}$  は無限集合となる. よって,  $b \wedge \neg[b_{\alpha_0}] = [B] \wedge [B_{\alpha_0}] > 0$  となるので, ブール代数の一般論より  $b \not\leq b_{\alpha_0}$  となる. これは  $b \leq b_\alpha$  に反する. よって, このような  $b$  は存在しない.